



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：ケリー米国務長官の来訪

5月23日、米国のケリー国務長官は、イスラエル・パレスチナを訪問した。ケリー国務長官の4回目の両国訪問である。イスラエル側では、ケリー国務長官は、23日にネタニヤフ首相、リブニ外相、ヤアロン国防相らと、24日には、ネタニヤフ首相、ペレス大統領と会談した。ケリー国務長官は、23日に、西岸のラマラを訪問し、アッバース大統領と2回、エラカート交渉局長ら PA 幹部と会談した。ラマラ訪問の際、ケリー国務長官は市内を視察して食事をしている。

ケリー国務長官は、24日からエチオピアを訪問した後、26日にはヨルダンに戻り、死海沿岸で開催された「経済フォーラム」に参加した。同会合には、60カ国から800人が参加（中東からは430）し、PAのアッバース大統領、イスラエルのペレス大統領、アブドッラー2世国王が参加している。同フォーラムでは、ケリー国務長官は、パレスチナに対する3年間で40億ドルの経済支援をする用意があることを表明した。ケリー国務長官は、27日には、アンマンで、リブニ司法相、アッバース大統領と個別に会談している。

3月以降、ケリー国務長官は、ネタニヤフ首相と4回、リブニ司法相と4回、アッバース大統領とは8回会談している。他方、イスラエルとパレスチナの直接会談はない。

ケリー国務長官の集中的なイスラエル・パレスチナ訪問では、まだ具体的な成果は出ていない。今回の訪問に関する報道では、「具体性のない楽観論」があると表現したメディアもある。ケリー国務長官自身は、中東和平問題について政策スピーチをしていない。そのためケリー国務長官が具体的に何を協議しているかは明らかにされていない。同長官は、24日、イスラエルとパレスチナの指導部が厳しい決断する時期が近いと述べているが、具体的な意味や時期は曖昧である。

(中島主席研究員)